

【重要課題：外国籍の人たち】

学級活動指導案

令和4年11月25日（金）第5校時
第1学年

人権教育としての授業研究の視点

自分が東京の学校に転校したときの心情を想像するロールプレイを設定したことは、訪日外国人が感じる不安な気持ちに寄り添って考え、言語や文化の違いにとらわれず、外国人とよりよい関係を築こうとする心情や態度を養うことに有効であったか。

1 題材名 「外国人とよりよい関係をつくるには」

学級活動（2）ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成

2 題材について

（1）生徒の実態

（削除）

（2）題材選定の理由

本題材群は、学習指導要領の学級活動の内容（2）の「自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成」で示されているように、学級・学校内にとどまらず、より広い意味での人間関係の在り方を考え、様々な集団の中での人間関係をよりよく形成していくことができるようにするものである。様々な人権課題について話し合ったり、実際に体験したりする活動を通して、人権に関して正しく理解し、他者への尊重と思いやりを深めてよりよい人間関係を築こうとする態度を養いたい。本題材は特に、外国人とよりよい人間関係を築くために、多様性を受け入れて、偏見や差別的な言動にならないよう行動しようとする態度を養うものである。国籍や身体的特徴、文化の違いに関わらず、同じ地球で生活する仲間の一人として相手を尊重する姿勢や、共存しようとする姿勢を育てていきたい。

3 人権教育とのかかわり

現在日本では、250万人以上の外国人が住んでいる（2021年12月法務省在留外国人統計より）。今後もグローバル化が進み、地域や学校、職場で外国人と接する機会は年々増加し、異文化との出会いは日常的なものとなっていくと考えられる。しかし、グローバル化が進む一方で、人種や国籍、言語、文化、習慣等の違いを理由に、不当な偏見や差別を受けて苦しんでいる人がいる。特に最近では、インターネットの発達により、公の場で特定の人種や民族等に属する個人や集団に対して行う差別的憎悪表現いわゆるヘイトスピーチや、SNS等を通じて行われる誹謗中傷や外国人を排斥する趣旨の言動が公然とされているも状況もある。このような状況を無くしていくために、人種や文化、習慣等の違いを受け入れて、互いを尊重し合う社会づくりが求められている。

そこで、これからの社会を築いていく中学生が普段から偏見や差別をしない、情報に振り回されない、相手のことを考えて行動するなどの意識を高めていく必要がある。自分とは異なる価値観や文化、習慣等に出会ったとき、偏った見方や考え方をせずに広い視野をもって、相手

の立場や状況を理解できる生徒や、外国人と共によりよい関係を築こうとする意識を育てることが、外国人の人権を尊重する社会を実現していくことにつながる。

本題材では、国や地域による文化や習慣の違いを知り、それによって日常生活で当たり前と感じていることが異なっていることに気付かせるとともに、自らの外国人とのかかわりにくさの原因を考え、よりよくかかわるために大切なことを話し合う活動を通して、外国人に対する望ましい人権感覚の育成を図る。また、昨年度から本校ではグアムの中学生とのリモート交流を始めたところである。本題材での学びを生かして実践させたい。

4 目標

外国人の文化や習慣等の違いを正しく理解し、相手を尊重する態度や、よりよい人間関係を築こうとする態度を養う。

5 評価規準

観 点	互いよさを生かす関係をつくるための知識・技能	協働してよりよい集団生活を築くための思考・判断・表現	主体的に多様な他者との関係をつくろうとする態度
評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> 外国人のもつ文化や習慣等の違いを正しく理解している。 外国人に対して差別や偏見をせず、相手のことを考えた言動がとれている。 	<ul style="list-style-type: none"> 物事を差別することなく公正・公平に判断し、行動している。 外国人とよりよい関係を築くために必要な言動を考え、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 外国人と積極的に関わり、よりよい関係を築いている。

6 指導計画

多様な人との関わり方を考える ～人権意識を高めよう～

題材① 自他の尊重（わたしってどんな人・友達のよさ発見） 自分の人権感覚（食べられるかぼちゃはどれ？ 1Aの共通課題を見つけよう）					
題材② 権利とは（権利の熱気球・人権講座） 今後の学習計画（私たちがかかわる経験が足りないのはどんな人たちだろう？）					
題材③ 高齢者や障がい者とかかわり（福祉とは？・車椅子・高齢者疑似体験・よりよい関係をつくるには）					
題材④ 外国人とよりよい関係をつくるには（本題材）					
学習過程	○ねらい ・主な学習活動	・主な指導上の留意点	評価の観点		
			知	思	態
事前	○国や地域によって、文化や習慣等の違いがあることを知り、自分が日常生活で当たり前と感じていることが、文化や生活環境によって変わること気付く。	<ul style="list-style-type: none"> 社会科地理的分野で学習した、諸外国の文化や宗教、生活習慣を振り返らせる。 4つの国の学校生活の説明文を読んで、どの国の様子を説明したものかを予想させる。 	○		

	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や人種による、文化や習慣等の違いを振り返る。 ・4つの国の学校の特色を知り、自分自身の当たり前の感覚を見つめ直す。 ・現在の日本の在留外国人の人数や留学生の状況を知る。 ・外国人とのかかわりについてのアンケートに答える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化や習慣によって、感じ方が異なることに気付けるように、自分たちと4つの国との学校生活や当たり前と感じていることをそれぞれ比較する場を設定する。 ・課題意識をもつことができるように、アンケートには外国人との心理的距離に関する項目を含める。 			
本時	<ul style="list-style-type: none"> ○自らの外国人との関わりにくさの原因について、心理的側面や文化的側面から考えるとともに、よりよくかかわるために大切なことを話し合うことを通して、外国人の立場や気持ちを押し量ってかかわろうとする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人との心理的な壁を乗り越えることが関わりにくさを和らげることに着目できるように、アンケート結果を分類・整理する活動を設定する。 ・訪日外国人の不安な気持ちを想像できるように、自分が東京の学校に引っ越すことを想定したロールプレイを設定する。 		○	○
事後	<ul style="list-style-type: none"> ○外国人と交流してよりよい関係を築く。 ・英語の学習において、グアムの中学生とリモート交流を行い、お互いの学校生活や文化などを伝え合う活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で考えた相手の立場や気持ちを押し量ってかかわることを意識して交流に臨ませる。 			○
題材⑤ 男女の平等（これって誰のこと？）					
題材⑥ 校内人権学習（インターネットにおけるいじめを起ささないようにするには） その他の人権課題（ヘイトスピーチとは） 学習のまとめ（多様な人とよりよい関係をつくるには）					

評価方法：ワークシート

共通課題に対して、各題材で課題解決に取り組み、考えたことやこれから生かしたいと思うことなどの視点から振り返りを蓄積して、指導に生かすとともに、総括的評価を行う。

7 本時の学習

(1) ねらい

自らの外国人とのかかわりにくさの原因について、心理的側面や文化的側面から考えるとともに、よりよくかかわるために必要なことを話し合うことを通して、外国人の立場や気持ちを押し量ってかかわろうとする態度を養う。

(2) 準備

<教師> 端末、アンケートの解答を示したカード、ロールプレイの台本、大型提示装置

<生徒> 端末、ポートフォリオ

(3) 人権教育の視点【育てたい能力・態度】

○判断力：異なる文化や習慣等に対する正しい理解を育て、物事を差別することなく公正・公平に判断するとともに、外国人とよりよい関係を築くために相手の立場に立った言動を考える。

○実践力：外国人に関する人権問題や自らの人権感覚に気付き、文化や習慣等の違いに関わらず、相手の立場を尊重しようとする意識をもつ。

(4) 展開

過程	学習活動 予想される生徒の反応（・）	時間	○指導上の留意点 ☆目指す生徒の姿（観点）【人権教育の視点】
導入	1 アンケートの結果を知り、本時のめあてをつかむ。 ・うまく伝えたいことが伝えられないし、やっぱり話すときに緊張してしまって話しにくいんだよな。 ・これから先、外国からの転校生と同じ学校に通うことになったり、外国人と一緒に働くことになったりしたら、どうやって接していけばいいのだろう。	10分	○自分たちとの文化や習慣等にギャップがあることを想起できるように、前時の学習内容を問いかける。 ○自らの外国人との関わりにくさについて課題意識を高めることができるように、事前アンケート結果を ICT 機器で提示する。 ○本時の学びを生かす場として、事後にガムの中学生とのリモート交流の場があることを伝える。
私たちが外国人とよりよくかかわるために、どのようなことが大切なのだろうか。			
展開	2 外国人とのかかわりにくさの原因を考える。 ・“英語が苦手”と“言葉が分からない”は仲間だと思う。 ・常識が違うというのは、文化の違いが原因だと思う。 ・外国人というだけでびびってしまうのは、うまく話せるか不安な気持ちがあると思う。 ・外国人とのかかわりにくさは気持ちの問題と、言語や文化の違いの問題があるんだな。	30分	○外国人とのかかわりにくさの原因を整理できるように、板書上でアンケートの回答を示したカードを仲間分けする活動を設定し、まとまりごとにふさわしい名前を問いかける。 ○心理的側面の原因が表出されにくい生徒には、外国人を苦手と感じる気持ちを具体的に問いかける。 ○先入観から生じる心理的な壁の存在に気付くことができるように、心理的側面の例として、市内の外国人の経営する飲食店への入りにくさについて紹介する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・言語や文化の違いは変えることができないけれど、気持ちの部分なら壁を無くしていけるかも。 <p>3 ロールプレイを通じて、訪日外国人の心情を想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が東京に引っ越しをすると考えるだけでも、群馬弁や見た目を気にするし、スマホを持っていないと馬鹿にされないか心配だな。 ・外国から来る友達なら、国内で転校するより、さらに緊張するだろうな。 ・外国人だって日本の文化や環境に合わせるために苦労しているし、困っていることもあるのだと思う。 <p>4 外国人とのよりよくかかわるために大切なことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手も心配な気持ちでいることを察して、優しく声をかけるとよいと思う。 ・言葉が通じないからと思って話しかけないことが本人にとって一番辛いと思うから、絵を描いて教えてあげたり、一緒に学校を案内したりしてあげたら良いと思う。 ・自分ならひそひそしゃべられたり、笑われたりすると嫌だから、外国籍の子のことじゃなくてもしないように気をつけた方がいいと思うな。 ・言葉じゃ伝わらなくても、スポーツやゲームを一緒にやることならできそうだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○外国人との心理的な壁を乗り越えることの大切さに着目できるように、仲間分けした関わりにくさの中で、自分たちで和らげることができそうな課題を問いかける。 ○自分が周囲の環境と異質であるときに感じる不安や緊張について実感できるように、自分が東京の学校に転校して自己紹介するロールプレイを設定し、感じたことを共有する。 ○訪日外国人の不安な気持ちを想像できるように、日本に転校してくる外国人の友達やALTなどの日本在住外国人の気持ちを問いかける。 ○多様な考えを広げることができるように、想像した訪日外国人の不安な気持ちを基に、自分が外国人とよりよくかかわるために大切だと思うことを考え、「ムーブノート」で共有する。【判断力】 ○自分の考えを持ってない生徒には、友達の考えを参照して、自分の考えに近い物を探すように助言する。 ○話合いが進まない班には、外国に行けば、自分たちも外国人になること、自分が外国に行ったら、どんなことをしてもらいたいのか、されたら嫌だなと思うことはあるかを考えさせる。 ○同じ地球に住む仲間の一人として認め、相手のことを尊重することの大切さに気付かせるように、各班から出された考えを共有し、まとめていく。 <p>☆外国人とよりよい関係を築くために大切な態度を考え、端末上に記述したり、発言したりする。(思考・判断・表現)</p>
終末	5 本時を振り返り、これから取り組んでいきたいことを考える。	10分 ○本時の学びを生かして、これから外国人と接する機会が訪れた時に意識したいこと

<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの話を聞いて、自分は日本人の友達と同じように、一人の仲間として積極的に話しかけていくことが大切だと思ったよ。 ・相手の立場や気持ちに寄り添って考えて関わる姿勢も大切なのだな。 ・今日考えたことを生かして次回のグアムの中学生との交流に生かしていけると良さそうだな。 	<p>を考えられるように、共通課題と本時のめあてを読み上げ、ポートフォリオに記入するよう促す。【実践力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○心理的な壁を乗り越えることに対して主体性を高められるように、展開で話題にした外国人が経営する飲食店に教師自身が実際に入った話を例示する。 ○事後の活動への主体性を高められるように、授業の最後にALTより、本時の取組への称賛とグアムの中学生と交流する際の助言を聞く機会を設定する。
---	--

(5) 板書計画

